

あなたの塾は、AIに引用されていますか？

コエテコ by GMO PR

人材・教育部門で **AI引用1位** のコエテコ担当者に聞く

AI検索時代 塾経営が取るべき “次の一手”

2026年上半期に実施された「AI Search Cited Award」(Brand UP調査)において、GMOメディア株式会社(森輝幸代表取締役社長、東京都渋谷区)が運営する「コエテコ byGMO」は人材・教育部門で最もAIに引用されたメディアとして1位を獲得した。ChatGPTやGeminiといった生成AIが情報取得の入口となる中、「AIに引用される」という事実は、新しい可視性の指標になりつつある。

しかし、これは特別な“AI裏技”の成果ではない。背景にあったのは、徹底したSEOと情報設計の積み重ねだった。

※AI Search Cited Award (AI Search Cited Award 2026 上期)：株式会社 Wanokuni が実施する調査・表彰。ChatGPTやGeminiなど主要AIプラットフォームにおける引用状況を分析し、業界別にAIに最も引用されるサイトをランキング化したもの(2026年2月発表)。

● AI引用1位は“SEOの延長線上”にあった

「コエテコ byGMO」は特別なAI対策のみを行っていたわけではない。AI検索時代においても、検索順位対策は依然として前提条件である。情報の網羅性、専門性、一次情報の充実、構造化データの整備——これらを徹底してきた結果が、AI引用という形で表れたに過ぎない。AIはWeb上の情報を横断的に学習する。だからこそ、SEOをやり切ったメディアが引用されやすいのは自然な帰結とも言える。

● AI検索の裏側で起きている“クエリファンアウト”

生成AIは、ユーザーの質問をそのまま検索しているわけではない。ひとつの問いを複数の関連クエリに分解し、横断的に情報を収集・統合して回答を生成している。この挙動は「クエリファンアウト(一つの問いをAIが複数の関連クエリに分解して検索する動作)」と呼ばれる。例えば「〇〇エリアでおすすめの塾は？」という質問は、「口コミ」「合格実績」「料金」「指導形式」「対象学年」など複数の観点に展開される。つまり、単一ページの最適化では不十分であり、塾に関す

る重要なのは、「AIのために何か特別なことをする」という発想から離れることかもしれない。AIが参照しやすい情報とは、突き詰めれば「人間にとっても理解しやすい情報」である。正確で、具体的で、構造が明快な情報は、検索エンジンにもAIにも、そして読者にも等しく評価される。コエテコが積み上げてきたのは、まさにそうした“情報の基礎体力”とも言うべき資産だ。

る情報が“複数の切り口で存在しているかどうか”が重要になる。言い換えれば、AIに「選ばれる塾」になるためには、保護者が塾を選ぶ際に気にするあらゆる疑問に対して、自塾の情報が答えられる状態を作っておく必要がある。料金体系、講師の指導スタイル、学習環境、進路実績、体験授業の有無——こうした情報が個別のページや記事として存在し、それぞれが検索・参照可能な状態にあることが、AIに複数の角度から引用されるための条件となる。



● 塾が取るべきAI対策：内側と外側の両輪

では、塾経営においては何が求められるのか。第一に、自塾サイトの情報を“資産化”することだ。指導方針や実績を具体的に記載し、FAQ形式で整理し、曖昧な表現を避ける。AIが理解しやすい構造を持つことが重要になる。第二に、第三者からの言及である。公式な指標は存在しないが、実務上の観測では、第三者メディアや比較記事、レビューなどで一定量の言及が蓄積されている塾ほど、AI回答内で参照されやすい傾向が見られる。AIは単一サイトではなく、前述のクエリファンアウトのようにクエリが分岐する過程で複数の情報源を照合しながら回答を生成するためだ。つまり、AI時代は“自己発信”だけでなく、“社会的にどう

語られているか”が問われる時代とも言える。この観点から、保護者の口コミや卒業生の声、メディアへの露出といった「外部からの語られ方」を意識的に育てていくことが、これまで以上に重要な経営課題となってくる。自塾のWebサイトをいくら磨いても、外部からの言及がなければAIに参照される機会は限られる。一朝一夕には積み上げられないからこそ、今から取り組む塾と後回しにする塾とでは、数年後のAI上での存在感に大きな差が生まれる可能性が高い。内側の情報整備と外側への露出拡大、この両輪を回し続けることが、AI時代における塾の生存戦略と言えるだろう。

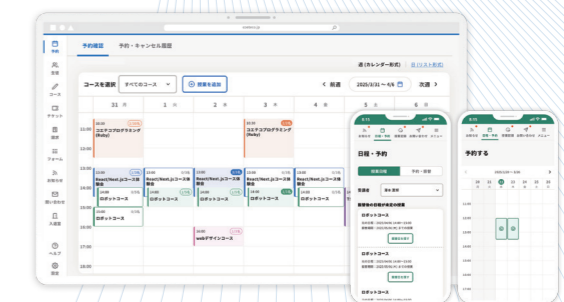
● 情報を“構造化”する取り組み

こうした構造を踏まえ、コエテコでは教育領域に特化した情報設計を強化してきた。塾情報を体系的に整理するポータル「コエテコ塾さがし」では、地域・学年・目的別に情報を構造化し、保護者の比較検討を支援している。また、教室運営を一元管理できるSaaS「コエテコマネージャー」では、授業・生徒・保護者対応の情報を統合し、教室の情報基盤を整備する。情報が整理されていることは、発信の質を高める土台にもなる。



▲ 学習塾検索ポータルサイト「コエテコ塾さがし」

「コエテコ塾さがし」への掲載は、こうした外部言及の起点としても機能する。AIが塾を参照する際、比較メディア上での情報の充実度は一つの判断材料となり得る。自塾ページの情報を充実させ、口コミを積み重ねていくことは、AI時代における集客インフラの整備とも言えるだろう。AIは脅威ではない。むしろ、情報設計の甘さを可視化する存在である。可視化される塾と、されない塾。その差は今後さらに広がるだろう。



▲ 教室運営管理SaaS「コエテコマネージャー」

AI引用時代の学習塾ポータルサイト

コエテコ塾さがし
by GMO

<https://coeteco.jp/juku>



詳細はこちら

AIネイティブ設計の教室運営SaaS

コエテコマネージャー
by GMO

<https://reserve.coeteco.jp/>



詳細はこちら

運営会社：GMO MEDIA

GMOメディア株式会社 〒150-8512 東京都渋谷区桜丘町26番1号セルリアンタワー12階
03-5456-2626 coeteco-marketing@gmo-media.jp

GMOメディア株式会社は、東証プライム上場のGMOインターネットグループに属する企業です。GMOインターネットグループは、インターネットインフラ事業や広告・メディア事業、金融事業などを展開する企業グループで、グループ会社130社、従業員約7,800名規模(2025年12月時点)で事業を展開しています。

GMO
INTERNET GROUP